

2014年度事業報告  
自:2014年1月1日 至:2014年12月31日

特定非営利活動法人 視覚障害者パソコンアシストネットワーク

1. 活動総括

2014年度のSPANは、最終損益が113万円の赤字という厳しい収支状況でしたが、そんな中でも計画した多くの活動を実施することができました。

その中で、特に個人に対する講座の開催と就労支援がメインになったといえるでしょう。

個人対象講座は年間で59回開催され、内容も初歩から検定受験、さらに職業スキルの習得までさまざまでした。また、土曜講座や夜間講座も年間8回開催され、28名が受講しました。

そして、就労支援については公益財団法人 東京しごと財団から受託した在職者訓練を、2013年度からの継続分を含めて7社7名に対して実施したほか、6月と11月には「通勤」や「管理職」をテーマとした視覚障害者職業スキルアップセミナーを開催し、合わせて58名が参加して活発な意見交換がなされました。

また、10月には国の機関からの依頼により、視覚障害職員への研修を2日間にわたり実施しました。

その他の講座としては、100回に近づいたインストラクター養成講座は、5回の講座で23名が受講しました。

外部からの受託事業としては、文京区や清瀬市といった自治体等が開催する講座のほか、福島県いわき市の眼科クリニック、埼玉県桶川市のパソコンボランティア団体が主催する講座にスタッフを派遣しました。

そのほか、10月に港区が開催した「みなと区民まつり」には2013年度に引き続き参加してSPANの活動を紹介しました。

テキスト作成では、Windows8.1の基本操作マニュアルを制作してWebサイトで公開したほか、Office2013のマニュアル制作にも着手しました。

会員向けの活動としては、会員勉強会1回とSPANサロン9回を開催したほか、10月にはNHK放送技術研究所の見学を行いました。これらの活動には合計105名が参加しました。

SPANサロンは会員のみなさんが気軽に参加できる場として計画され、内容もパソコンなどの学習から食事会まで多彩でした。

SPANサロンについては、今後も会員のみなさんの声を聴きながら、より有益で楽しい場にしていきたいと思えます。また、毎月末に発行している「SPANニュース」により、会の活動を会員のみなさんにお知らせしてきました。

広報活動としては、7月に「SPAN2014」と題する広報誌を発行し、SPANの活動を内外に発信したほか、11月には日本ユニシスグループ 社会貢献クラブ「ユニハート」ならびに日本ユニシスからの支援を受けて視覚障害者の継続就労をテーマとした企業向け啓発ビデオを制作しました。

さらに、NPO法人サービスグラントからの支援を受けてSPANのWebサイトのリニューアルも行いました。

会員数では、久々に増加していて、これもSPANの活動を多くの方が応援してくださっていることの証だと思えます。

また、広報誌等での寄付の呼びかけに応じただいた方が賛助会員となったため、これまでなかった賛助会員が大幅に増えました。

ただ、2013年度に引き続き最終損益が赤字という結果となり、財政面での立て直しが急務となっています。今後は、スタートした認定NPO認証取得の活動を着実に進めて寄付金を確保していくほか、助成金や新たな受託先を確保する努力が必要だと感じています。

また、活動に参加する会員が一部に偏っている状態は改善が見られるもののまだ不十分な面もあるので、今後はより魅力的な活動の場を作っていくことが必要だと思えます。

このように、いろいろと課題はありますが、1年間活動できたのは、ひとえに会員のみなさん、そしてSPANを支えていただいている多くの方々のお力によるものと心から感謝致します。

## 2. 活動報告

2014年度には以下の活動を行いました。  
(別紙「活動報告」参照)

## 3. 会員の状況

2014年12月31日現在の会費納入会員数は以下の通りです。

	男	女	計
正会員	61(53)	51(42)	112(95)
賛助会員			28(0)
合計			140(95)

\* ( )内の数字は前年度会員数。